

<5班> 次代を担うグローバル人材の育成

課題	だれが	なにをする	備考
①情報発信・PR			
PRについて	県	留学のメリットとして、就職の斡旋をして欲しい。	留学をする事に関するメリットをあまり感じられない。
PRについて	県	親向けの情報発信	子どもを送り出すにあたり、不安が多い。
奨学金について	県	保護者への説明の機会を増やす。	100%奨学金でまかなえないのであれば、親の協力がどうしても必要になってくる。
PR不足	県	留学に対するサイトの内容を充実させる。	留学をしたいと思った学生が、情報を入手しやすくするため。
PR不足	県	高校生や中学生に対して、留学の体験談を話しに行く。	留学に生きたいと思う人を増やすため。
学生に対する情報（サイト等）不足	県	サイトの更新をして、検索の上位に出るようにする。	下の方に埋もれてしまうと、検索しても探しにくいため。
日本人学生へのPR不足	県	留学情報一覧のようなサイトを製作（または依頼）	高校生、大学生が気軽に留学
日本人学生へのPR不足	民間企業	サイト制作	サイト制作が得な会社に頼めば、誰にとっても分かりやすいサイトが作れるのでは。
日本人学生へのPR不足	大学	情報提供	大学ごとに特色があるはずなので、そこをPRすれば、高校生にも刺さるのでは。
子どもの海外経験・教育	県	留学経験者（支援対象者）のモニタリング（キャリア・地域貢献しているか）	
子どもの海外経験・教育	県	コンソーシアム等のPR。SEO、WEBマーケティング、ツイッターのフォロワー数をまずは1万人。	
PR不足	県	ふじのくに海外留学応援フェアのPR不足。	高校、大学へのチラシ配布不足
PR不足	大学	留學生活の情報発信不足	相談内容の共有化不足
PR不足	マスコミ	アルバイト、就労、生活苦の相談を取り上げていない	個人情報に配慮、情報共有し、解決策を出す
PR不足	県	日本に留学しようと考えている外国人に向けて、静岡の魅力をPRするような動画を作り、YouTubeなどにUPする。	外国人が日本の中で、静岡を選ぶ理由が欲しい。
PR不足	県・県内大学	Webページ表紙の軽量化で検索しやすくする。	Wi-Fiでない環境で見やすくする。
情報発信方法	県	情報の交通整理	情報が多すぎるのでポイントをまとめたチャートを作ったりする
情報発信方法	学校	情報を受ける方法	県の提示を提供してもらう
PR不足	県	必要時に情報を拾えるようにする	ホームページに限らず、様々な方法で広報をする。
PR不足	学校	OG・OB訪問	留学全体についての説明。
留学に関する県民の認識	県	誰でも見れる	県のホームページの充実

課題	だれが	なにをする	備考
留学に関する県民の認識	学校	外国の人や文化に触れる	①授業の中で海外に目が行くような取組 ②オンラインによる外国との交流を小学生から行っていく ③職業との留学の結び付け（例：パティシエ等はヨーロッパへの海外経験が多く、語学学習に繋がっていくのではないか）
留学に関する県民の認識	企業	留学経験が生かせるような就職先の開拓	留学経験がどのようび企業で生かしているのかを周知するなど、広くPR等
PR、県民の認識	県	適切な媒体で発信を行う。検索に引っかかるようにする。	F a c e b o o kは誰も使わない。
PR不足	県	留学情報をまとめたサイトをつくる	留学したいと思ったとき、すぐに情報が見つかるべき。
PR不足	自治体	各自治体で行った、留学をした学生の体験代をまとめた広報を出す。	電子でも配信する。
留学したことによるメリットが分からない	県	留学したことによって、自分のキャリアにどのように役立つかを明確に伝える。	留学した人の就職実績について明確に伝えるために、ホームページ、SNSを活用する。
留学したことによるメリットが分からない	高校	留学することによるメリットや、将来にどのように役立つかを伝える。	留学の実体験や、どのような業種について、どのように役立ったのかを知ることができる講演会を行う。
情報発信、PR不足	県	情報サイトの質的向上	これから情報メディアについて考えていく必要がある（IT時代）。
情報発信、PR不足	県	ホームページの充実	
PR不足	県	今のままでは不足しているため、ふじのくにグローバル人材育成基金の趣致やタグ付けを行う。	
PR不足	県	SNSを活用して、参加者の声や今までの実績、これからのイベントを発信する。	
PR不足	県民	留学に関する認識をしっかり持ち、知ろうとする。	
PR不足	県	ホームページを利用する。	アップデートを図る。
1つの事項に対しての広がりが少ない	県	1つ1つの事が、他とどうつながるか（つなげられるか）を考える。	詳しい資料がないが、バラバラに感じる。
1つの事項に対しての広がりが少ない	奨学生・研修教職員	経験を伝える。	伝える方法が古い。
1つの事項に対しての広がりが少ない		オンラインを有効に使う。	オンライン交流は高校からではもったいない。

課題	だれが	なにをする	備考
②外国人留学生の県内定着			
県内定着について	県	留学生に対する支援を今まで以上に手厚くする。	静岡に残りたいと思うメリットを増やした方が良い。
県内定着の折り返いのつけ方	県	静岡に定着してもらうため、できるかぎりの対策をとる。就職支援。	データを見えるようにするため。
県内定着の折り返いのつけ方	県民	県内定着にこだわりすぎない	本人（留学生）の意思があるから。
外国人留学生のその後の活躍、県内定着	県	そもそも留学が必要なのか。	県内就職や残留を高める。
外国人留学生のその後の活躍、県内定着	教育委員会	県内在留の魅力、他県との差別化	サブカルチャー、賃金が高いメリットのPR
外国人留学生のその後の活躍、県内定着	地域・企業	企業交流会を進める	グローバル人材の必要性がある。
外国人留学生の静岡在留率を高める	県	「静岡」で働くことを条件に、奨学金の額を増やすなど	産学官連携の活用
県内定着	県	外国人用の県内での求人サイトを作って、分かりやすくする。	就職をもっとしやすいようにする。
県内定着	県	地域内就職率向上	留学生のニーズを知る。
県内定着	県	留学生の情報提供を受ける。	地域定着率を把握する。
静岡県への残留率	県	県へ就職したいのかアンケートをとる。就職したいと希望した人が、本当に就職したのか調べる。	
中小企業が求めている人材	県	労働力として、中小企業が求める学生も奨励してほしい。	
優秀な人材、定着について不明確さが気になる。	県	何を求めているか、明確にする。	優秀の基準が不明。定着の統計が的を射ていないと感じる。
優秀な人材、定着について不明確さが気になる。	企業	どのような人材を求めているのか、県に示す。	県は、求められている人材を把握できていないようだ。

	課題	だれが	なにをする	備考
③金銭的支援				
	奨学金について	県	奨学金を出している企業と学生とのマッチング	県で出せる奨学金に限界があるのなら、他に頼るしかない。
	奨学金が少ない	県	企業に対して留学生が増えることで、地域によってどのようなメリットがあるかPRする。	企業からの寄附金を増やすため。
	奨学金の金額	県	どこからお金を出すのか考える。企業との協力。	費用を増やす。
	奨学金の金額	県	1人当たりいくら出すのか考える。	どの層（家族の留学経験の有無等）が受領するかによって、金額が変わるため。
	奨学金制度の拡充、民間との連携	県	優秀人材の発掘（海外・日本人）	ICT等の成長分野で活躍できる人材育成、地域貢献。
	奨学金制度の拡充、民間との連携	民間企業	柔軟な寄附金制度の設立（小口）	SDGs・CSRの視点。長期的目線。
	奨学金制度の拡充、民間との連携	個人・家庭	留学に対する理解。グローバル・多様化への課題意識。	就職、キャリアへのつながりの理解。
	留学応援奨学金を増やす	県	県立大	税金支援しているため、チェックが必要
	留学応援奨学金を増やす	企業	スポンサー企業を募る、積極的に企業名を挙げる	採用に有利になる
	留学応援奨学金を増やす	産学官一体化	財団を作り、支援・提供する	産業政策のPR、動機アップにつながる。
	資金	県	適切な金額	金額が良いのか確認
	海外留学、研修費用を県、企業、家庭がどのように負担していくのか。	県	企業の協力をうまく仰ぐ。お金を出してもらえるような施策を実施。	
	海外留学、研修費用を県、企業、家庭がどのように負担していくのか。	企業	寄附や奨学金を出す（出すのは自由だが、声には耳を傾ける必要がある）。	
	海外留学、研修費用を県、企業、家庭がどのように負担していくのか。	学生（家庭）	お金を出してもらうためには、留学についての理解を深め、信徒湯に検討していく必要がある。	
	奨学金	大学	学部と企業が連携して、エレベーター制度をつくる。	国立は無理ではないか。
	奨学金	企業	企業が個別で奨学金を貸す。	
	費用について	県	留学する際の奨学金を出している企業についてPRする。	
	費用について	地元企業	留学したグローバル人材を育成するためにも奨学金制度をつくる。	
	奨学金	県	奨学金に制限をかける。	2～3年は県内に留まる。
	奨学金	県	企業及び大学の奨学金の情報を集める。	コンソーシアムでまとめる。
	奨学金	県	国の奨学金制度の情報を集約化	関係者へPR

	課題	だれが	なにをする	備考
④海外修学旅行				
	教員、高校生の海外修学旅行	県	国際感覚を育てる	教育効果が図れる。
	子どもの海外経験・教育	県	修学旅行（30%→100%）	海外の原体験を持つ柔軟性
⑤海外研修				
	教員の海外研修	県	継続的に行う。	
	教員の海外研修	教員	海外研修経験を伝える。	
	海外研修について	県	研修に行った先生に、各学校に行ってもらおう。	研修で培った知識の共有があまりできていないようなので、行った方が良い。
	海外研修の実施を増やす	県	現在の課題を、海外研修を通じて解決する。	I C T活用と並行してメリットを出していく
	海外研修の実施を増やす	教育委員会	目的をもって、研修する。農業雑学を増やす。	文化や芸術に触れることも大切。
	海外研修の実施を増やす	企業	コロナ前にて、使用先を決めずに提供してもらおう。	紐付きでも良いので、スポンサー企業を増やす。
	留学のハードルの高さ	県	一週間ほどの短い留学体験ができるようなプランを考える。	短期間であれば、費用もそれほど高くはなく、海外を考える良い経験になる。
	高校職員の海外研修の認知について	県	行ける人数は限られているため、行ったことのある人の話を広げるようにする。生徒に伝えられるように言う。	
	高校職員の海外研修の認知について	教師	生徒や職員に対して研修の話をするようにして、留学や研修について知ってもらおう。	
	海外研修等の実施	県	必ず目的を持つ（技能向上）	知っている人より、できる人を目標に。
	教職員の海外研修	県	県と他県とを比較して、県より他県の方が研修をしているようなら、研修を増やす必要があるのではないかな。	
	教職員の海外研修	県	海外研修を行った教員に他校にきてもらい、海外研修をした教育の存在を広く知らせる。	
	静岡県への残留率	県	県の予算でやっているものだから、目標値を設定して、その値になるようにアプローチしていく。	
その他				
	英語の語学	県	英語の触れる環境の提供	イベント等の実施
	英語の語学	学校	接点を県から得る	イベントの参加
	留学のハードルを下げる	教育	英語や外国語に対する苦手意識を植え付けない教育	検討事項の教員の負担。教員の海外研修。